

## テオシントに対する除草剤試験

黒江秀雄・折田安行・恒吉利彦・原田満弘(鹿児島県畜産試験場)

KUROE, H., Y. ORITA, T. TSUNEYOSHI and M. HARADA : Chemical Control of Weeds on Teosinte

初期生育の遅いテオシントは、雑草に被圧され低収となることが多い。そこで、テオシントに対する各種除草剤の効果について検討したので報告する。

## 1. 試験方法

試験Ⅰ, 1) 試験期間 1980年7月23日～9月5日  
2) 処理時期 土壌処理 7月23日, 生育期処理 8月5日  
3) 処理 土壌処理 ①アトラジン 200g/10a ②リニユロン 200g ③アラクロール 400ml ④C A T 8kg ⑤アラクロール 200ml+アトラジン 200g ⑥パラコート 300ml/生育期処理 ⑦アトラジン 200g 生育期処理 ⑧無除草 ⑨完全除草

試験Ⅱ, 1) 試験期間 1980年8月5日～9月5日  
2) 処理時期 7月21日ロータリーで耕起後15日放置し雑草を発芽させ, 播種覆土直後処理 8月5日 3) 処理 土壌処理 ①パラコート 300ml ②パラコート 300ml+アラクロール 200ml ③パラコート 300ml+アトラジン 200g

## 2. 結果及び考察

1) 試験Ⅰ テオシントの収量は, C A T区が最も多く, 無除草区が最低であった。パラコート区, リニユロン区も低収であった。イネ科雑草についてみると, 最高は無除草区で, 最低は, アラクロール+アトラジン区であった。アトラジン, リニユロンの土壌処理は, 効果が劣る。広葉雑草は, C A T区が最も多く, アトラジンの生育期処理が最低であった。合計雑草量は, 無除草区が最も多く, アラクロール+アトラジン区が最低であった。雑草指数は, 無除草区を100とすると, 最高はリニユロン区の54で, 最低は, アラクロール+アトラジン区の7であった。雑草群落比についてみると, 無除草区が83.5

%と最も高く, アラクロール+アトラジン区が15.7%で最低であった。広葉雑草の割合は, パラコート生育期処理が43.9%と最も高く, 最低は, アトラジン生育期処理の0%であった。なお, 優占雑草は, イネ科がオヒシバ, メヒシバで, 広葉はイヌビユであった。

以上を要約すると, 最も効果的な除草剤は, アラクロールとアトラジンの混用土壌処理で, 次いでパラコートの生育期畦間処理と, アトラジンの生育期処理が優れていた。ただ, パラコート処理は, 作物に農薬が飛散すると葉害が生ずる恐れがあるので, カバー付のノズルを使用する必要がある。また, アトラジンの生育期処理も効果が高かったが, 雑草の生育ステージが進んでからでは効果が劣るので注意を要する。

2) 試験Ⅱ テオシントの収量は, パラコート+アラクロール区が最も多く, パラコート+アトラジン区が最低であった。イネ科雑草は, パラコート区が最も多く, パラコート+アトラジン区が最低であった。広葉雑草, 合計雑草量, 雑草群落比についても, イネ科雑草と同様の傾向であった。広葉雑草の割合は, パラコート+アラクロール区が高く, パラコート+アトラジン区は低かった。なお, 優占雑草は, イネ科は, オヒシバ, メヒシバで, 広葉は, イヌビユであった。

以上を要約すると, 試験Ⅱでは, パラコート+アトラジン混用の土壌処理が最も効果が高かった。このパラコートを組み合わせた処理は, 耕起後10～15日間放置して雑草を発芽させ, それをパラコートで処理して直ちに播種する方法である。この方法は, 雑草抑制には効果的であるが, 10～15日間作付けが遅れるので年間の作付体系からは若干問題がある。

第1表 テオシントに対する各種除草剤の効果 (g/m<sup>2</sup>)

処 理	区 分	物							
		テオシント	イネ科雑草	広葉雑草	合計雑草量	雑草指数	雑草群落比	広葉雑草の割合	
試 験 Ⅰ	アトラジン200g土壌処理	84.1	93.2	16.9	110.1	36	56.7%	15.3%	
	リニユロン200g土壌処理	61.8	163.8	1.2	165.0	54	55.9	0.7	
	アラクロール400ml土壌処理	120.3	36.7	23.1	59.8	19	33.1	38.6	
	C A T 8kg土壌処理	150.6	71.0	30.2	101.1	33	43.6	29.9	
	アラクロール(200ml)+アトラジン(200g)土壌処理	122.9	17.7	3.5	21.2	7	15.7	16.5%	
	パラコート300ml/生育期処理	63.1	20.6	16.1	36.7	12	35.7	43.9	
	アトラジン200g/生育期処理	119.9	37.5	0	37.5	12	24.7	0	
	無 除 草	58.5	286.8	21.1	307.9	100	83.5	6.9	
試 験 Ⅱ	完全除草	87.9	0	0	0	—	0	—	
	パラコート300ml/播種後処理	18.8	10.1	6.0	16.1	—	42.3	37.3	
	パラコート(300ml)+アラクロール(200ml)播種直後処理	19.6	1.3	2.0	3.3	—	15.1	60.6	
		パラコート(300ml)+アトラジン(200g)播種直後処理	10.8	0.2	0	0.2	—	1.1	0